

福岡 地域福祉活動職員の
ま な こ
地域福祉活動推進のため

No. 68 2010年11月発行 福岡県地域福祉活動職員連絡会

★報告 <<地職連研修事業 2010>>
コミュニティワーカー養成研修会

**コミュニティワークの
歴史的発展を学び
理論的理解を深めていく
そこで見えてくる
コミュニティワーカーの
役割・技術とは**



県地域福祉活動職員連絡会が主催する、今年度の「コミュニティワーカー養成研修会」が、10月22日（金）に福岡市市民福祉プラザでスタートしました。4回シリーズの初回となったこの日は、シリーズを通じて講師&コメンテーターを務める、九州大学大学院の稲葉美由紀准教授による講義「コミュニティワーカーの役割を学ぶ～8つの領域～」などが行われました。
(報告 / 福津市社協 前嶋)

初めに：自己紹介

国連で貧困問題への取り組み

講師の稲葉先生は、福岡県小郡市出身で高校時代からアメリカに渡り、その後国連での活動に従事され、おもに貧困問題の領域で活躍された経歴があります。

冒頭で「私は主に国連で外国の貧困者や女性を対象に社会開発の活動に従事してきました。支援が必要な人があまりに多くて一人ひとりの問題に対応するケースワークができる状況ではありませんでした。国ごとで文化や政治的背景が異なるため課題や技法も異なります。その技法をそのまま日本に持ち込むことは無理があることを前提としますが、根底には共通の部分もあります。また、ワーカーはコミュニティワークの技法をより多く持っている方がいいと思いますので、海外の話も聞いていただければと思います」という趣旨の挨拶をされました。

社会福祉の国際比較

ソーシャルワークの領域は

まず初めに、世界各国が医療・福祉・社会保障などに、どの程度の予算割合を投入しているのかについての説明からはじまりました。

福祉の先進地と言われる北欧をはじめ

め、欧州やアジアなどとの比較が示されました。そして、日本がアメリカと似ており、社会福祉にあまり予算を割いていない旨の話がありました。

また、稲葉先生が活動していたアメリカの状況についても説明があり、最近のクリントン・ブッシュ・オバマと交替している政権の中で、共和党と民主党のせめぎ合いがアメリカ国内の施策にどのような影響を及ぼしたのかについて、他ではなかなか聞くことができない説明を受けることができました。それから、一言でソーシャルワークの領域と言っても、国によりワーカークの関心も少しずつ異なるようです。

「日本では『福祉』といえば高齢者の領域が大きいが、アメリカではエイジズム(年齢差別)の影響もあり高齢者領域への関心は日本と比較すると極めて低い。コミュニティワークも60年代に比べると活発に展開されているとはいえない状況にある。

その一方で、児童・家族、青少年、薬物依存者などへカウンスリングやセラピーを実践するメンタルヘルス領域が強く、ある意味、これは現代アメリカ人の価値観を反映している」といった説明もあり、国ごとで事情はずいぶん違うものだと知ることができました。

アメリカCWの歴史的展開

8つのモデルを中心に

その後、アメリカのコミュニティワークの歴史的な展開について説明がありました(4ページ参照)。それぞれの時代背景に応じてコミュニティワークの理論も変化しており、その時々で従事している人々のさまざまな苦悩や試行錯誤があったんだろうなあと、想像しながら聞いていました。

終盤は「21世紀における「コミュニティ・プラクティスマodel」について」「近隣・コミュニティの組織化」「社会的・経済的コミュニティ開発」「政治的・ソーシャルアクション」など8つのモデルの説明がありました。

講義の終了後のグループでの話し合いでは、自分たちの日々の業務がどの領域に該当するのかについて具体例を出し合って整理する中で、社協がほとんど手をつけていない領域もあり、「コミュニティワークの概念の広さに改めて驚かされました。

インドの貧困の子どもたちの問題

ワーカーはいかに関わったか

その他、稲葉先生が海外で関わられた事例も、写真と併せて紹介されました。そのひとつがインドのムンバイのケースです。学校に行くことができない貧し

い労働者の子どもたちの教育問題に取り組まれました。

インドでは小・中学校に該当する子どもたちに教育の機会が保障されているのですが、社会的な要因によってそれが阻害されることがあります。対象となったコミュニティでは、大人が仕事(土木作業を求めて集団で移動することを繰り返しており、定住ではないため非常に質素なアントやバラックでの生活を余儀なくされていきました。そこに住む子どもたちは、学齢期に達しても、幼い弟や妹の世話に追われ家を離れることができず、地元で学校があってもそこに通うことができないのです。

ここで活動を開始したソーシャルワーカーは、まず大人(親)に教育の意義を説明し、将来、子どもたちがより安定した仕事に就くためには必要なことだと伝えました。次に保育園を整備し、子どもたちが学校に通うために必要な環境を整えました。

また、学校においても、過酷な環境から精神的な障害をもつなど集中力を維持できない多くの子どもたちに対応するため、放課後プログラムとしてPC教室や絵本読みなどの独自の取り組みを進めていきました。

しかしながら、せっかくながら、学校の都

合で大人が移動を余儀なくされ、コミュニティが1日で消滅・移動してしまうこともあり、決して全てが上手くいくわけではありません。ですが、最後に見せてもらった写真が印象的

でした。それは、子どもたちが学習の成果を発表する場面に親が参加している一種の「授業参観」のような光景でしたが、子どもたちの笑顔の前に一張羅を身にまとった親が並んでいます。この場面は、この事例に関わった子どもたち、保護者、教育者、ソーシャルワーカーなどが一堂に会した重要な場面だったと思いますが、そこに並んだ関係者の満足そうな表情を見ながら、「私は普段、関係者が一張羅を身にまとい喜んでもらえるような仕事ができているのかなあ」と、そんなことを考えていました。

誰のどのような状態を「福祉問題」

「人権侵害」と捉えるのか

「21st Century Approach」していくのか

今回の稲葉先生のお話しは、アメリカにおけるコミュニティワークの理論の展開や、国連で従事された世界レベルの活動が中心となりました。こうした理論と自分たちの社協職員の日々の業務をつないでいく作業も予定されていたことですが、時間の都合で一

アメリカにおける コミュニティワークの歴史的展開

※当日の資料より抜粋

(CO=コミュニティ・オーガニゼーション community organization)

(CP=コミュニティ・プラクティス community practice)

■マレー・ロスのCOモデル (1955年)

i) 単一目標による方法

⇒特定のニーズと特定資源の調整。

ii) 全般的目標による方法

⇒地域社会の多数の集団など地域内のサービス改善のために効果的な計画、調整、開発を図ること。

iii) 過程を目標にする方法

⇒地域社会の集団が対策目標を達成するための協働的に推進していくプロセス

■J. ロスマン「3つのCO実践モデル」1968年

i) コミュニティ・ディベロップメント/小地域開発

⇒ワーカーの役割：イネプラー/コーディネーター

ii) ソーシャル・プランニング/社会計画

⇒ワーカーの役割：調査員/事業推進者

iii) ソーシャル・アクション

⇒ワーカーの役割：アドボケイター/活動家

■R. フィッシャー「3つのCOアプローチ」1987年

i) ソーシャルワークモデル

⇒ソーシャルワーカー専門者指導の地域社会の組織化、社会サービス組織間の連携化、社会資源の開発及び配分。

ii) 政治的活動家モデル

⇒権力の獲得、維持、再構築、地域社会の能力強化。

iii) 近隣維持モデル

⇒居住のエリアである地域社会の永続。

■M. ウェイルら「8つのCP実践モデル」

(1995, 1996, 2005)

i) 近隣・コミュニティの組織化

ii) 機能的コミュニティの組織化

iii) 社会的・経済的コミュニティ開発

iv) 社会計画

v) プログラム開発/コミュニティとの連絡・調整

vi) 政治的・ソーシャルアクション

vii) 連携化

viii) 社会運動

部未消化のまま終わりました。そのため、正直なところ社協職員として直面している問題に直接的にはつながらず、もたぬなかつたと思います。少なくとも、日々の業務にすぐに役立つ「HOW TO」ではありませんでした。事例も社会状況の大きく異なる地域のものでした。

しかしながら、「誰のどのような状態を福祉問題(=人権侵害)として捉えるのか」「そこにどうアプローチしていくのか」「どのように活動を展開していくのか」「どのようなゴールを目指すのか」といった「コミュニティワーク展開のあり方は共通しています。福祉問題の受け止め方・捉え方と、それをどのように改善していくことを目指していくのかは、国ごとだけではなく、自分たちの国の市町村ごとでも異なるものです。コミュニティワークの担当者、こどもと少しづつ差があり、それだけに理論とあわせて担当者個々人の感覚も重要になると思います。そして、それを磨いていくためには、こうした研修や他市町村の職員とのつながりが欠かせない要素だと考えています。

次回からは事例に学ぶCW

ワーカーの動きに着目

研修の終わりに、今回の企画を担当された筑後市社協・ト部さんから、「次回からは市町村の社協職員から事例発表を行ってまいります。取り組みの内容を学ぶことが目的ではありません。問題に直面したコミュニティワーカーが、その問題をどのように捉え、住民にどのような働きかけ・アプローチをし、どのような役割を担っているのかを一緒に学んでいきたいと思えます」と挨拶されました。非常に印象的な言葉でした。

日々の業務の中、社協職員が地域や窓口で接する問題には、既存の社会資源だけでは対処できないものが多くあったり、社協が受けとめる問題がどうか悩むこともしばしばです。また、問題の大きさに途方に暮れることもあり、これからの研修を通じて、事例発表をされるそれぞれの職員のみなさんの足跡を見て、また、それを他の市町村の職員のみなさんと話し合うことで、コミュニティワークの技法だけではなく、姿勢や勇気を学んでいきたいと思えます。

福岡県地域福祉活動職員連絡会 研修事業

「コミュニティワーカー養成研修会」に参加しませんか？

本号でもお伝えした研修会。次回以降の内容は以下のとおりです。途中からの参加もOK！積極的な参加、お待ちしております！

② 11月20日(土) 13:00~17:00 ●会場/小都市総合保健福祉センターあすてらす

■古賀教靖氏(苅田町社協/福岡県)【社会計画】

⇒苅田町第2次地域福祉活動計画について

■半田由美子氏(尾道市社協/広島県)【機能的コミュニティの組織化】

⇒ボラ連商店街の空き店舗を利用して運営する「荒神堂サロン」の取り組みについて

③ 12月17日(金) 13:00~17:00 ●会場/筑後市総合福祉センター

■吉田瑞穂氏(中津市社協三光支所/大分県)【近隣及びコミュニティの組織化】

⇒地域課題に対する住民の取り組みと社協の関わりについて

■津川則光氏(下矢部西部地区社協/熊本県)【プログラム開発とコミュニティの連絡調整】

⇒廃校となった旧小学校を地域福祉の拠点へ再生させた「小規模多機能ホーム“絆”」について

④ 1月22日(土) 13:00~17:00 ●会場/福岡市市民福祉プラザ

■内容/まとめ~コミュニティワーカーに求められるもの~

■講師/稲葉美由紀先生(九州大学)

【参加費】 無料

【対象者】 社会福祉協議会の地域福祉担当職員
【講師&コメンテーター】

稲葉美由紀先生(九州大学大学院言語文化研究院准教授)

【主催】 福岡県地域福祉活動職員連絡会

【申込み・問合せ】 筑後市社会福祉協議会

〒833-0032 福岡県筑後市野町680-1

TEL 0942-52-3969 FAX 0942-53-6677

Mail f_chishokuren@yahoo.co.jp

Mail chikugo-syakyo@athena.ocn.ne.jp

編集後記
—編集者のつぶやき—

「重度の障害を持つ車イスの男性と旅行に行った時のこと。4〜5歳くらいの子が、一緒にいる車イスの男性を見て『お母さん！あの人変だよ！』と指を差して言ったのです。

もちろん、この女の子に悪意は全くありません。おそらく「障害者」を初めて見たのでしょう。『何でみんなと違うのかなあ？』と純粋な気持ちで言ったのだと思います。

しかし…。実は私には障害のある姉がいます。子ども頃、姉といる時、人に指を差されて姉が同じようなことを言われたことがフラッシュバックしました。子どもながらに悲しい気持ちになったのを覚えています」

ある男性のお話です。
4〜5歳の女の子と、姉と一緒にいた男の子。このお話を聞き、それぞれの親が、どのような言葉をかけたのだろう…とと思いました。

子どもの言葉は純粋そのもの。問題は周りの大人がどういふ言葉を返し、フォローするのか、ということ。それによって、子どもの障害(者)観が変わりそうです。

私ならどんな言葉をかけただろう。皆さんならどう考えますか？(U.Y)

★発行者

福岡県地域福祉活動職員連絡会

★事務局

〒838-0126

福岡県小都市二森1167-1

小都市社会福祉協議会内

TEL 0942-73-1120

FAX 0942-72-5694

E-mail f_chishokuren@yahoo.co.jp